

令和3年度

総合戦略事業評価報告書

〔 評価対象：令和2年度地方創生推進交付金事業 〕

令和3年11月

にかほ市ふるさと創造有識者会議

はじめに

1. ふるさと創造有識者会議について

本市では、平成27年11月に「にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

まち・ひと・しごと創生を効果的・効率的に推進していくためには、住民、NPO、関係団体や民間事業者等の参加・協力が重要であることから、総合戦略策定にあたっては、住民をはじめ、産業界・市町村や国の関係行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア（産学官金労言）等で構成する推進組織でその方向性や具体案について審議・検討し、広く関係者の意見が反映されるようにすることが重要とされた。

また、その効果検証に際しても、その妥当性・客観性を担保するため、行政の中だけで行うのではなく、このような組織などを活用して、外部有識者の参画を得ることが重要とされていることから、産学官金労言の各分野における有識者及び住民代表からなる「にかほ市ふるさと創造有識者会議」を設置した。

2. 令和2年度にかほ市ふるさと創造有識者会議構成

役 職	氏 名	所 属	分野
議 長	小笠原 正	秋田県立大学 名誉教授	学
副議長	新 田 修	にかほ市工業振興会 会長	産
議 員	佐 藤 仁	にかほ市商工会 青年部長	産
〃	石 川 直 雄	にかほ市観光協会	産
〃	土 井 剛	秋田しんせい農協 西部営農センター長	産
〃	笠 井 仁 志	由利地域振興局 地域企画課長	官
〃	安 達 光	北都銀行 象潟支店長	金

ふるさと創造有識者会議の審査概要と総評

令和3年度のにかほ市ふるさと創造有識者会議（事業評価）は、令和3年11月4日、5日の2日間で開かれ、令和2年度地方創生推進交付金事業として実施された4事業を評価したので、その審査概要を報告するとともに総評を述べる。

第2期にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間は令和2年度から令和8年度までの7年間である。

総合戦略の推進にあたってはP D C Aサイクルの運用が求められることから、評価は事業の目標（K P I：重要業績評価指標）の達成に効果があったかどうかについて、A（効果がある）、B（やや効果がある）、C（あまり効果がない）、D（効果がない）の4段階で行った。

評価を行ったのは地方創生推進交付金事業である【子ども・子育てのまちを核としたシティプロモーション】、【外国人材にとって「働きやすいまち」、「暮らしやすいまち」実現に向けた満足度向上事業】、【地域を支える「関係人口」創出プロジェクト】、および【にかほ発！ビーチから未来を担う「にかほベンチャー」創出・育成事業】の4事業であった。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、事業の中止・縮小を余儀なくされ、担当の方々は大変苦勞されたと思う。令和3年度も同様の影響が考えられるので事業の執行に当たっては細心の注意を払ってほしい。

評価結果はA評価が3事業、B評価が1事業であった。A評価でも今後の展開への期待を込めたうえでのものや、改善点を指摘されたものもあり、評価に満足することなく、今後も事業を進めてほしい。

7名の議員からは、それぞれの事業に対して多くの意見が出されたが、いずれも事業効果が向上し、にかほ市の地方創生に資するものとなるための意見なので真摯に受け止めてほしい。

今回の事業評価においても、市職員の意識の高さ、事業を良いものにしようという意識が感じられた。

今回の評価も昨年度と同様に、にかほ市外部行政評価委員会で使用している事業評価シートとほぼ同様の評価シートを用い、あらかじめ担当課が事業評価を行った。外部行

政評価でも指摘されているように、事業の捉え方や事業の対象、評価項目にある事業の必要性について、担当課においては今まで以上に評価結果の公表を意識した、的確な記載に努められるようお願いしたい。また、K P Iについては、目標値をクリアしたかどうかだけではなく、翌年度以降の目標値の設定にフィードバックするなど、より効果的な運用に努めてほしい。また、その事業にふさわしいK P Iになっているかについてもよく考えていただきたい。

総合戦略事業の評価は、外部行政評価と異なる視点で評価されたものであるが、事業効果の測定、効果の検証など、P D C Aサイクルを回し、事業をより良いものにするという観点では根本的に同じものである。よって、今回、各議員から出された意見を十分検討し、事業の改善に役立てるのはもちろん、根本的な見直し、効果が見込めないものについては廃止までを含めて見直しを行い、にかほ市の地方創生に資する事業にしていくことを期待する。

行政のみならず、外部の力も借りながら、にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に取り組み、少しでも人口減少に歯止めがかかるようにまい進してほしい。

令和3年11月30日

にかほ市ふるさと創造有識者会議

議 長	小笠原	正
副議長	新 田	修
議 員	佐 藤	仁
〃	石 川	直 雄
〃	土 井	剛
〃	笠 井	仁 志
〃	安 達	光

○会議の開催経過

会 議	日時・場所	内容
第1回会議	令和3年11月4日（木） 市役所象潟庁舎 大会議室	委嘱状交付、議長・副議長の指名 有識者会議の設置について 会議の進め方について、事業評価について 評価作業（2事業） 子育て支援課、商工政策課
第2回会議	令和3年11月5日（金） 市役所象潟庁舎 大会議室	評価作業（2事業） 総合政策課

○評価対象とした事業

別表「令和2年度地方創生推進交付金事業」のとおり。

○評価の区分

評価は、次に示す4区分によるものとし、意見や提言等を付すものとした。

- 評価A K P I の達成に効果がある
- 評価B K P I の達成にやや効果がある
- 評価C K P I の達成にあまり効果がない
- 評価D K P I の達成に効果がない

○評価の手順

- 手順1 事業担当課による事業概要等の説明 20分程度
 - ↓
 - 手順2 質疑応答 20分程度
 - ↓
 - 手順3 各議員の評価発表
 - ↓
 - 手順4 評価のまとめ（総合評価）
- } 5分程度

令和2年度地方創生推進交付金事業

○事業計画期間 令和2年度～令和4年度（3カ年）

番号	総合戦略における分類			事業名	課・班名
	基本目標	大分類	中分類		
1	1 次世代を担う産業振興	(1) 稼ぐ力のある産業振興	② 多様な企業立地の促進と魅力ある雇用環境の創出	外国人材にとって「働きやすいまち」、「暮らしやすいまち」実現に向けた満足度向上事業	商工政策課 商工振興班
2			③ 起業・創業・事業承継に対する支援	にかほ発！ビーチから未来を担う「にかほベンチャー」創出・育成事業	総合政策課 企画調整班
3	2 人を呼び込むまちづくり	(1) 新たな人の流れづくり	① 関係人口の創出と拡大	地域を支える「関係人口」創出プロジェクト	総合政策課 企画調整班
4			② シティプロモーションの推進	子ども・子育てのまちを核としたシティプロモーション	子育て支援課 子育て支援班

（基本目標の項目順に記載）

《令和3年11月4日（木）有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
1	子育て支援課	子ども・子育てのまちを核とした シティプロモーション	直営事業

事業の概要	事業内容	「にかほ・子ども伴奏（伴走）プロジェクト」に掲げる「子ども・子育てに寄り添うまち」としてのにかほ市を首都圏に向けて発信することにより、関係人口、にかほファンとの継続的な関係構築を図り、首都圏から地方への人口流動を推進する。
	事業の対象	にかほファンのもととなる首都圏に住む子育て世代 市民、出身者のみならず、首都圏で暮らす結婚・出産など「暮らしの転換期」にあたる世代
	活動内容	「子育てしやすいまち」発信するポータルサイトを構築し、マスメディアやWebプロモーションによる情報発信を行う。交流事業や教育留学、田舎体験等のコンテンツの創出により、関係人口の拡大を図り、感心層としてのにかほファンへ継続的情報発信の仕組みを構築する。
	目的・成果	感心層との相互コミュニケーションを構築し、情報リーチ数の拡大を図り、「子ども・子育てに寄り添うまち」としてのにかほ市の知名度拡大を目指す。また、来市やイベント体験者、市内在住者、地域の育成団体、企業等の中からサポーターとして自ら広報活動の一役を担うアンバサダーを育成し、シティプロモーションの拡大と継続した関係人口の創出を図る。

評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロモーション活動は継続することが重要。 ・ 誰に対してのプロモーションなのかよく考えて、様々な手法で展開してほしい。 ・ 市外のみならず、市内への周知も重要。 			
		A： 6人	B： 1人	C： 0人	D： 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマホで検索しても何もヒットしてこない、もったいない。子育て施策を全面に出している市町村では、ホームページの冒頭に打ち出しており、それを見れば子育てに力を入れていることが分かる。 ・ 誰に対してプロモートしていくのか、そこを考えればやり方はいろいろとあるのではないか。 ・ プロモートに関しては継続してやり続けなければ意味がない。まずやり続けることが大事。 				

有識者会議での意見等

- ・ 秋田県でも子育て支援の充実をPRしているが、県民意識調査の結果では充実調査の評価はかなり低くなっている。県外の人に対してはもちろん、足元の地元の人にもちゃんと周知していくのが大事。
- ・ コロナ禍の影響もあり、このような形での情報発信しかできなかったのかもしれないが、対面で話ができればまた違った方向性となったのではと思う。
- ・ シティプロモーションで自分たちのまちのよさ、まちの事を知ってもらう、「にかほってどこにあるの」、「にかほはここだよ」、という気持ちで続けていくことが非常に大事なのではないか。
- ・ 何が住みやすいのかということを今後追及して行っていただきたい。
- ・ 子育てのメリットだけではなく、もっと他で自信をもってにかほ市を宣伝できたらいいのと思う。
- ・ 18歳まで医療費無料はとてもよいが、そのことを市外に周知するのは難しい。
- ・ 結構な金額の予算が配分されている。今回はそれについて厳しい追及はなかったが、次回は金額的な話もさせていただきたい。

《令和3年11月4日（木）有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
2	商工政策課	外国人材にとって「働きやすいまち」、「暮らしやすいまち」実現に向けた満足度向上事業	直営事業

事業の概要	事業内容	技能実習生と地域住民との交流事業を行う。
	事業の対象	外国人技能実習生と地域住民等
	活動内容	にかほ市の自然や施設の紹介、食文化の体験等を通じた交流事業を開催する。
	目的・成果	技能実習生が孤独に陥ることなく、安心して暮らし、働き続けられることを目指す。

評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で対面する事業ができなかったことは理解するが、事業計画として内容が薄かったのではないかと。 ・ 技能実習生同士の交流のみならず、市民との交流も重要である。 ・ にかほ市が技能実習生から選ばれるようになるくらい、受入れ態勢を整備し、働きやすい環境づくりをしてほしい。 			
		A : 0人	B : 7人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の計画が少し薄いと思う。技能実習生は、実習プログラムに手を挙げて前向きに参加した選ばれた人たち。こちらから近寄る姿勢を見せることで、お互い歩み寄ることができるのではないかと。挨拶できる関係を目指して十分意識していけば、もっと良い効果が生まれるのではないかと。 ・ 市が窓口となり交流会への参加を募集すれば、参加したいという人も出てくると思う。こういうことをやっているという情報をきちんと公開していくことが大事。 ・ 単に技能実習生同士で交流するだけでなく、市民との対話ができるような交流にすれば、にかほ市としても何かメリットがあるかもしれない。技能実習生は間違いなく数年で帰国するので、実習生同士の交流だけではあまり意味がない。ボランティア団体などとのタイアップなど、市民と交流すれば周知にもなりよいのではないかと。 ・ 人材不足を補うためにも必要な事業だと思う。ただし、コロナ禍で企業も対応に苦慮しているので、オンラインによる交流会など、工夫を凝らす必要がある。 				

有識者会議での意見等

- ・ 外国人の労働力の活用というのはもはや全国的な話である。来てくれている方々のフォローアップは、監理団体や受入起業の役割だと思うが、全国的な競争となった場合、市として受入れ態勢がしっかり整っていることは、将来的によいと思うので期待していきたい。
- ・ 地元雇用は今後ますます難しくなると思う。そうなる外国人材に頼らざるを得ない状況になるので、技能実習生が来やすい環境を作り、現在いる実習生からにかほ市の会社はいいですよと広めてもらえるようになれば嬉しい。
- ・ コロナ禍でやりたいことができなかつたジレンマがあったと思うが、現在は大分落ち着いてきたので、今回出た非常に有意義な意見を活かしていただき、技能実習生が働きやすい環境を作ってほしい。

《令和3年11月5日（金）有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
3	総合政策課	地域を支える「関係人口」創出プロジェクト	直営事業 (委託)

事業の概要	事業内容	地域内外の人が、「にかほのほかに」（旧上郷小学校）を拠点に学びの場を作り、にかほ市に関心を持ってもらい、共に地域課題の解決や地域資源を活用した取り組みを進める関係人口を増やす。
	事業の対象	にかほ市の地域課題解決や活性化に関して、にかほ市を応援してくれる関係人口と地域内で活動する人。
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・にかほ市を知ってもらうために、オンラインラジオやSNSでの情報発信 ・外部人材を活用し、地域外での取り組みを学ぶ場づくり
	目的・成果	地域外のかかほを応援してくれる人（関係人口）がかかほ市に関心を寄せ、足を運び、地域の人と共に地域課題の解決や地域資源を活用した取り組みを進める。

評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・旧上郷小学校利活用事業を行っていることは知っているが、どのようなことに取り組んでいるか周知が不足している。 ・特に、デジタルに弱い高齢者等へのフォローが必要である。 ・事業内容については、今後期待できる内容であり、交付金対象の3年が終了した後も継続するべき。 			
		A : 7人	B : 0人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も上郷地域を活気づけ、他地区とも一緒になって活気づけるような何かができればいいと思う。かなり期待している、今後も継続してほしい。 ・地元の年配の方や、SNSに馴染みのない人に対しての手当が必要。 ・インターネットラジオは、聴者の半数くらいが県外の人ということで、かなり周知の効果はあると思う。ぜひ継続してほしい。 ・地元の人と連携する第3の人口、関係人口を増やすのは、民間では限界がある。こうした地道な事業が行政には求められているのではないか。 ・非常に先があるものを作れる気がするので、これからも応援していきたい。 ・普段、開いているのかどうか分からず、気軽に行っているものなのかなと思う。解放時間の周知、イベント時の開放時間等。情報開示をして、行きたい人が行けるようにしてもらいたい。 ・廃校舎の利用という形では、にかほ市はうまくやっていると思う。 				

《令和3年11月5日（金）有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
4	総合政策課	にかほ発！ビーチから未来を担う 「にかほベンチャー」創出・育成事業	直営事業 (委託)

事業の概要	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 既に起業している人材やこれから起業しようとする人材を核として、今後の運営母体（まちづくり法人）をつくる。 ② 首都圏、都市部の若者に向けた広報活動を行い、本市の地域資源や地域課題を活用したビジネスにチャレンジできる人材を確保する。 ③ 起業するための基礎知識を習得するためのプログラム開発と提供する。
	事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> ① 起業を考えている人もしくは起業したばかりの人 ② 自身が持っているビジネススキルを地方で活かしたいと考えている若者 ③ 起業を考えている人及び起業して間もない人
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域外で既に起業している人材の確保と地域内で起業を考えている人材との連携により、まちづくり法人を設立する。 ② Web サイトや SNS を活用して、インキュベーション施設（わくばにかほ）の PR、オンラインでの相談会等を実施 ③ オンラインと対面の双方で対応したセミナーの開催と記事の配信、アクセラレータープログラムの実施
	目的・成果	<ul style="list-style-type: none"> ① ベンチャーを生み出し続けるシステムを構築し、にかほ市を牽引するベンチャー企業の集積地を目指す。 ② 地方でも展開できるビジネスモデルをもった都市部の人材が移住し、地域課題や地域資源を活用して本市を拠点にビジネス展開する。 ③ 実践できるような、より具体的なビジネスモデルをつくり、自走に向けたトライアルを行う。

評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴い廃業が相次ぎ、企業数が減少する中、起業を支援する場があるということは非常に重要である。 ・都道府県レベルでは起業創業支援を行っているケースはあるが、市町村レベルでできているところは珍しい。 ・事業承継も重要だが、起業創業も重要であり継続して取り組んでほしい。 			
		A : 7人	B : 0人	C : 0人	D : 0人

有識者会議での意見等

- ・ 当初、どのような事業内容がよく分からなかったが、話をしていくうちに理解できた。一般社団法人ロンドは、非常にスキルが高く、今後地域の宝になりうる存在である。
- ・ 秋田には若者に魅力的な働く場がないと言われる中、企業誘致ではなかなか成果に結び付けるのは難しい。だったら、やりたいことを自分で起業するという形でもいいのではないかとというのが県の考え方の一つでもある。五城目町のワークスペースが有名だが、「わくば」に非常に期待している。
- ・ これまでどんなことをしているのかよく分からなかったが、今回の説明で何となく理解できた。これからに期待したい。
- ・ この地域のコンテンツの客観的な見方を市民に教えてくれる場でもあると思うので、いつもと違った見方のヒントを得られるような場になればいいと思う。
- ・ 事務所を探している人や違う分野での起業を考えている人にとってプラスになる場所であり、商工会会員との交流ができればいいと思う。
- ・ どんどん起業家を増やしていただくことは、地元企業の活性化につながるので、そのような企業が増えてほしい。